

第1 基本方針

高原地域の農業は、広大な農地と草原の景観に代表される冷涼な自然条件を生かし、畜産、水稲、野菜を中心とした営農が行われている。

畜産の農業産出額に占める割合は高く、水稲では有機物資源に恵まれ、また、病害虫の発生も比較的少ないことから、特別栽培米の生産が積極的に行われている。園芸部門では施設野菜や施設花き、果樹の導入が図られ、品目も多彩であり、気候温暖化の中で夏期における野菜供給基地となっている。しかし、施設栽培を除くと、各作物の栽培期間は4月から11月頃までと平坦地に比べて明らかに短く、土地利用率が低いため、1戸当たり生産農業所得は県平均を下回っている。また、農業労働力の中心となる基幹的農業従事者も減少の傾向にあり、加えて農産物価格の低迷や生産資材価格の高騰などが農家経営に多大な影響を及ぼしている。

このような状況の中、主要作目である水稲、麦及び大豆の生産性向上と高付加価値化、及び効率的営農に即応できる技術の確立が急がれる。一方、トマト、イチゴなどの野菜について、気象変動の影響を軽減し、高品質安定多収生産技術を確立することが重要な課題である。

このため、高原農業研究所においては、高原地域の気象条件に適した稼げる品目・品種の選定と生産技術の開発に取り組む。

第2 重要研究事項

1 水田部門

(1) 地域、用途に適した高品質多収品種の選定と安定生産技術の確立

水稲では、主力品種「コシヒカリ」が倒伏しやすく生産が不安定なため、新たな良食味品種の選定と安定生産技術を確立する。また、「コシヒカリ」の食味評価向上を目指し、良食味米生産技術開発に取り組む。

大麦では、低温害に強い、栽培特性や品質に優れた品種の選定を行う。

大豆では、「フクユタカ」が作付けの中心であるが、収穫作業の競合回避と品質向上をねらいとして、高冷地域に適した高品質な早生品種の選定を行う。また、県認定品種「すずかれん」の高冷地域における増収技術を検討する。

2 野菜部門

(1) トマトの増収技術及びイチゴ育成新品種の栽培技術の確立

野菜では、地域における重要品目である夏秋トマトにおいて、近年導入された品種「りんか409」の特性がこれまでの品種と異なることから、灌水方法や台木品種などについて検討し、更なる増収を目指す。また、省力を目的としたセル苗直接定植における栽培技術を確立する。イチゴについては、本県育成のイチゴ新品種「ゆうべに」の高冷地域における特性を明らかにするとともに、栽培技術を確立する。

第3 試験研究課題一覧

【高原農業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
水田	1. 多彩なくまもと農業の魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) 水稻等の優良品種の選定と作況調査	648	県単	① 優良品種の選定と栽培特性（水稻、大麦、大豆）調査 ② 水稻の作況調査	S48～継続 S48～継続
		(2) 水稻品種育成にかかる特性検定	547 総額	外部 資金	① 穂いもち抵抗性検定試験	H26～H28
野菜	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	組替 (1) 高冷地における基幹的水田作物の安定生産技術	677	県単	① 水稻有望系統「熊本58号」の極良食味生産安定技術 新規 ② 阿蘇高冷地の特別栽培「コシヒカリ」における食味向上技術 新規 ③ 高冷地における小粒大豆「すずかれん」の安定生産技術	H27～H29 H28～H30 H28～H29
		(1) 夏秋トマトの高品質多収栽培技術の開発	1,252	県単	① 強草勢維持による多収技術の開発	H26～H28
		(2) 熊本県開発促成イチゴ育成系統の栽培技術確立(再掲)	662	県単	① 選抜系統の栽培特性検討及び栽培管理技術の確立 [農産園芸研究所、い業研究所、高原農業研究所] ② 現地試験 [農産園芸研究所]	H25～H28 H26～H28
		新規 (3) トマトおよびイチゴにおける高機能性被覆資材の利用技術確立(再掲)	8,016 総額	外部 資金	① 夏秋トマトにおける高機能性被覆資材の利用技術確立 ② 促成イチゴ育苗期における高機能性被覆資材の利用技術確立 [農産園芸研究所]	H28～H30 H28～H30

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

組替：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

延長：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

短縮：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題